

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

【 北九州市 】

1 実践テーマ	【 I・III 】
2 実施対象者	石峯中学校 全校生徒173名 藤木小学校 6年生 35名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ○ )
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リオパラリンピック車椅子テニス日本代表二條実穂選手の方の話を聞いたり、競技用車椅子の使用体験をしたりして、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。</li> <li>・ 車椅子を使って生活する苦労や工夫を知り、体験を通して考え、障害をもった方たちと共生する社会について考える。</li> </ul>
5 取組内容	<p>「リオパラリンピック車椅子テニス日本代表二條実穂選手との交流を通して」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○二條実穂選手の体育館入場</li> <li>○二條実穂選手の紹介</li> <li>○二條実穂選手による「リオデジャネイロ パラリンピック報告会」(40分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プレゼンによる報告</li> </ul> </li> <li>○競技用車いす体験会(50分) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 競技用車いすクラス対抗リレー(生徒・児童全員参加)</li> <li>・ 競技用車いすテニス体験(代表生徒・教職員)</li> </ul> </li> <li>○二條実穂選手への質問タイム(10分)</li> </ul>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○二條実穂選手の生き様や絶対にあきらめない精神力、リオパラリンピックの様子など大変わかりやすい報告会であった。</li> <li>○二條実穂選手の東京パラリンピックの出場に向けた情熱に触れ、生徒は東京オリンピック・パラリンピックへの期待や意識をたかめることができた。</li> <li>○車いすテニス選手に尊敬の念を持ち、その心情の強さを感じ、人の生き方について考え、生徒自身の目標へとつなげることができた。</li> </ul>

	<p>○車いすを使う立場になって考え、障害をもった方たちと共生する豊かな社会をつくらうとする心情を養うことができた。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>○二條実穂選手の強い要望から、滅多に乗ることがない競技用車いすを参加生徒・児童全員に体験させることができた。</p> <p>○そのために、北九州市立障害者スポーツセンターと連携し、競技用車いすを10台借用した。</p> <p>○二條実穂選手の車いすでの移動や対応が、学校側として初めてだったため心配したが、二條実穂選手が介助が必要なことをはっきりおっしゃってくださったので、スムーズに送迎、進行することができた。</p>
8主な課題等	<p>○二條実穂選手は、過去から北九州市とは交流が深いため、今後も、可能な限り北九州市内の小中学校に訪問して、リオパラリンピック報告会や車いす体験学習を子どもたちで行いたいと切望されている。</p> <p>○二條実穂選手は、次年度、世界各地で行われる車いすテニス大会に出場されるが、今後とも、直接メールや電話等で講演依頼をすることができるので、推進校での活用が大いに期待される。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○本校でも、東京オリンピックまでに、再度、講演会や体験学習を行いたいと考えている。</p> <p>○また本校では、平成30年度、北九州市内でブラインドサッカーの普及活動をされている団体を招聘して、講演会およびブラインドサッカー体験を実施する予定である。</p> <p>○これらの講演会や体験活動を通して、東京オリンピック・パラリンピックへの関心・意欲を高めていきたいと考える。</p>